

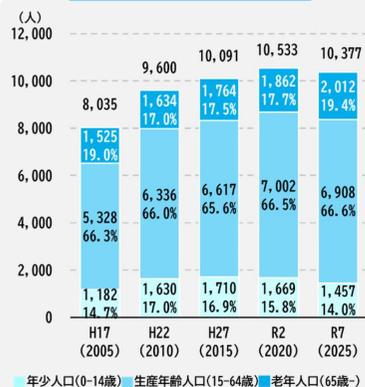
袋井南地区

構成自治会連合会：
駅前、高尾、愛野



JR 袋井駅・愛野駅があり、県道袋井大須賀線が通る交通アクセスが良好な地区です。駅周辺は市の都市拠点・地域拠点で医療・福祉・商業などの都市機能が集積し、暮らしやすい住環境が整っています。

人口推移



現状 (SWOT 分析「強み」から)

1. 保育施設や子どもの遊び場が充実し、若い世代の居住が進み、子育て世代が安心して暮らすことができます。
2. 広い公園や水辺など、自然の中でウォーキングや運動ができ、日常的に健康づくりができます。
3. 地盤が強固な丘陵地を含み、災害リスクが比較的低いなど、安全・安心に暮らすことができます。
4. 袋井駅・愛野駅・秋葉バス路線など交通の結節点があり、都市拠点整備も進んでおり、快適で利便性が高いです。
5. 保育園から高校、図書館などの教育施設が整い、彫刻やアートなど文化・芸術に触れる機会も多く、学びと感性が育まれやすいです。
6. 花火大会や祭りなどでは、市内外から人が集まります。

課題 (SWOT 分析「弱み」から)

1. 転入者がコミュニティに馴染みにくい側面があることや、高齢化に伴う担い手不足など、地域のつながりや自治会の運営体制に課題感があります。
2. 自家用車以外の交通アクセスが縮小傾向にあり、買い物など日常の移動に不便を感じる場面があります。
3. 駅周辺の空き店舗や、エコバ来訪者を地域経済の活性化に活かしてないなど、駅前の商業活性化に向けた取組が求められます。
4. 居酒屋が多く夜のにぎわいがある一方で、治安面も含めて安全安心なまちづくりが求められます。
5. 液状化や水害の懸念がある地域があり、防災面での対策が求められています。

まちづくりの方針図



スローガン 目指すまちの姿

住民のつながりと参加でつくる
誰もが『住んでよかった』と実感できる活気あるまち

まちづくりの推進方針

1. 駅と地域資源を活かした、にぎわいのあるまちづくり

JR 袋井駅・愛野駅を中心に、地域資源や自然環境との調和を活かしながら、にぎわいと活気のあるまちづくりを推進します。

2. 誰もが健康で安心して暮らせる、支え合いのまちづくり

防災・減災対策を強化し、世代間の交流と支え合いで、子どもから高齢者まで、誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりを推進します。

地域内の取組

まちづくり協議会主導

- 地域イベントの充実(納涼祭、盆踊りなど)
- コミセンLINEの活用による、地域行事やイベントの紹介
- 祭り、イベントへの地域住民の参加促進
- 健康寿命を延ばす新しい取組の推進(e スポーツ・カードゲーム・マージャン大会など)
- 防災、防犯推進体制の充実

- 駅(袋井駅・愛野駅)を活用した交通拠点づくりとイベント連携
- 空き店舗を活用した商業の活性化
- 各世代に届く情報発信の工夫(市やまちづくり協議会の SNS を活用)
- 南海トラフ地震や水害への防災対策強化

行政主導

- ◇ 原野谷川排水区整備事業
- ◇ 都市計画道路路端宝野線整備事業
- ◇ 市道掛之上称宜弥線整備事業
- ◇ 袋井駅南都市拠点土地区画整理事業
- ◇ 県道袋井小笠線整備促進事業
- ◇ Fukuroi Central Park 推進事業
- ◇ (仮称)愛野産業団地開発事業

○ まちづくり協議会が主導する取組 □ 協働による取組 ◇ 行政が主導する取組

地域のみなさんの声 (取組を進める上で参考となる意見など)

- 駅周辺に学生などの発表の場を作り、地域で盛り上げると活気づくのではないかと。
- 高齢化が進んでいるため、将来的に自動運転や無人バスなどの交通の検討も必要だと思う。
- 保育園や放課後児童クラブをはじめ、習い事や小児科・薬局の情報など、子どもに特化した情報があると助かる。
- 駅前区画整理事業から長期間経過し、高齢者や一人世帯、空き家・空き店舗も増加している。自治会活動も低下してきていることに懸念を覚えている。
- 一人暮らし高齢者が増えていて、孤独死が心配。見守りの強化が必要だと思う。
- 高齢者向けの健康づくりやふれあい(交流)の場として、公会堂をもっと活用した方がよい。
- 防災教室は、親子で楽しみながら学べる形にすると、効果的ではないかと。
- ライドシェアなどで商業施設への送迎があるとありがたい。
- ちょっとした困りごとには、袋井南サポートセンターが活用できる。
- 若者が企画して同世代が参加・交流できるイベントが開催できると良い。